令和6年度　学校評価表 （後期）

大崎上島町立大崎上島中学校

教育目標			経営理念		
学校教育目標	心豊かで、たくましく、主体的に学び、地域に貢献できる生徒の育成		【ミッション】 大崎上島の将来を担う、たくましく生きぬく生徒の育成 ～ふるさと大崎上島を愛する生徒を育てる～	【ビジョン】 ≪めざす学校像≫ 〇安心、安全な学校 〇教職員が協働し、主体性と創意工夫を大切にする学校 〇地域に開かれ、保護者、地域と相互に支え合い、誇れる学校	≪めざす生徒像≫ 〇 自らの夢や目標に向かって主体的に学び行動できる生徒 〇 自分に自信と誇りを持ち、仲間への思いやりと優しさを持つことができる生徒 〇 故郷に誇りを持ち、地域の文化と人を大切にする生徒
研究テーマ	生徒が主体的に学び、深め合う授業の創造 ～「逆向き設計論」を生かした単元設計・授業設計～				

評価計画							自己評価				取組の成果と今後の改善方策
領域	中期経営目標	短期経営目標（子供の姿）	担当	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値	達成度	評価	結果と課題の分析	
確かな学力	主体的・対話的で深い学びの質の向上	改善の視点を明確にした研究授業	研究	・「主体的・対話的で深い学び」を焦点化した校内授業研究を実施する。（年5回以上） ・課題に対して、自分の考えを持ち、学び合いながら、課題解決に取り組み、考えを深める授業改善を行う。	全国学力・学習状況調査では、全国、県平均3ポイント上回る。標準学力調査では、各学年、全国平均と比較し、各教科平均5ポイント上回る。質問紙「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。」肯定的評価の割合（80%）	80%	国＋10% 数＋10% 標準学力 6/15 73.9%	国117% 数119% 標準学力 40% 92.3%	A B	4月に行われた全国学力・学習状況調査では、国語・数学ともに全国平均と比較して＋10ポイントとなり、目標を達成している。一方、全国学力・学習状況調査質問紙では、生徒の肯定的評価は73．9%（全国平均80．3%）で、全国平均と比較して−6．4ポイントとなった。与えられた課題に対しては取り組むことができるが、自ら課題を見つけ、主体的に解決に向けて取り組むことに苦手意識がある生徒が多いことが分かる。12月に実施した標準学力調査では、1年生では社会・理科が全国値と比較して上回っており、国語・数学・英語は同等である。2年生では全ての教科が全国値を上回っている。3年生では理科が全国値を上回っており、国語・社会・英語は同等であるが、数学は全国値を下回っている。全国値と比較して5ポイント以上上回っているのは、1年生の社会・理科、2年生の国語・社会・数学・理科である。	校内研修としては、生徒が見通しを持った主体的な学びを目指した単元設計論である「逆向き設計論」を研究テーマに掲げ、校内授業研究を年間で5回行った。その他、「逆向き設計論」に関する理論研修や、「大崎上島中授業モデル」による授業づくりに関する職員研修を行い、教職員の指導力向上を図った。また、全国学力・学習状況調査では、各教科での学習内容の定着を図る取組や、昨年度3月に1・2年生で実施した「基礎基本タイム」等、各教科や学年を中心に全教職員で取り組んだ成果が表れたと考える。さらに、標準学力調査に向けて各教科で実施した復習プリントや、1・2年生で現在も継続して取り組んでいる家庭学習プリントの成果も表れている。今後に向けては、「大崎上島中授業モデル」を研究の中心に据え、「本質的な問い」を基にした授業づくりや、個別最適な学びと協働的な学びの一体化をより一層推進していく。
		基礎・基本の定着		個人思考、グループ、全体交流について意図的に仕組み、自分の考えを相手に分かりやすく伝わるように発表させる。	生徒アンケート「授業では自分の考えを持ち、相手に分かりやすく伝わるように発表しています。」の肯定的評価の割合	80%	77%	96%	B	生徒アンケートでは、肯定的評価の割合が前期83%から後期77%と減少した。学年別では、1年58%（前期−22）、2年89%（−7）、3年83%（前期＋11）が肯定的回答をしており、3年生で肯定的回答の割合が増加している。一方で、1・2年生は前期よりも肯定的回答をした生徒が減少している。自分の考えを相手に伝えることや、発表することに苦手意識を持つ生徒が増え、学習に受け身になっていると推察される。	3年生の数値が前期よりも上昇している（＋11）のは、各教科担当者が「学び合い」の学習活動を効果的に設定し、自分の考えを他者に伝える場面を作っていることや、広島県公立高校入試を見据えた「自己表現」の取組が成果をもたらしていると考える。今後は3年生だけでなく、前期から数値を下げた1・2年生についても、引き続き授業の中で「学び合い」の学習活動を積極的に設定し、学級活動や生徒会行事の中でも自分の考えを表現する場面を意図的に設定する。また、生徒指導部や学年部と連携し、安心して発言・発表できる学級づくりをしていく。
				・定期的な研修を実施する。（毎月1回） ・毎月1回以上ICTを活用した授業を行う。 ・学期に1回オンライン授業を行う。	・定期的な確認及び生徒・教職員・保護者アンケートの肯定的評価の割合	80%	生98% 保93% 教92%	生122.5% 保116.2% 教115%	A	市町の「学びの変革」チャレンジ加配の一環として、町内小学校の授業研究へ参加した。その他、校内授業研究や「大崎上島中授業モデル」による授業づくり研修、「逆向き設計論」の理論研修等、学力向上に向けて定期的な研修を実施した。その中で見えた児童生徒のつまずきや、取組のポイント等を研究通信にまとめ、全教職員で意識統一を図った。また、ICTの活用としては、2学期よりロイロノートが配備され、教職員及び生徒に向けて操作研修を行い、授業でも日常的に活用している。ICTを活用した授業実践例を研究通信に掲載し、学校全体で授業力向上を図った。	生徒は授業や学級活動等、学校生活の中で、日常的にタブレットPCを活用している。中でも、9月から新たに導入されたクラウド型アプリ「ロイロノート」を、全学年・全教科で活用することができた。今後も、引き続き一人一台端末を効果的に活用し、ICTを文房具的に使う土壌を育てていく。教職員向けには、ロイロノートの操作研修を行ったほか、ICTを活用した授業実践を、研究通信や校内研修で発信した。今後も引き続き、研究通信等を活用しながら、全教職員が生徒の思考の深まりに効果的なICTの活用を行えるよう意識統一を図る。
				・家庭学習の習慣化に向けて「学び方マニュアル」の周知徹底を図る。 ・個別学習の充実を図る。 ・授業規律の徹底を図る。	生徒、保護者アンケートによる家庭学習時間（1年：70分 2年：80分3年：90分）を上回るの割合	70%	生60% 保43%	生85.7% 保61.4%	生B 保C	生徒アンケートでは、肯定的評価の割合が前期と比較して5%増加した。1年50%（前期−6）、2年43%（＋2）、3年91%（＋19）が達成できていると回答している。3年生は目標値を大幅に達成できているが、1・2年生で家庭学習時間が短く、1年生は前期よりも肯定的回答をした生徒が減少している。保護者の割合は、1年36%（前期＋7）、2年31%（＋12）、3年65%（＋15）全学年とも前期よりも数値が上昇しているが、目標値は満たしておらず、家庭学習が定着していないことが分かる。	3年生の数値が前期よりも大きく上昇している（＋19）のは、進路の実現に向けて家庭学習の必要性を感じているからであると考える。今後は、3年生だけでなく、1・2年生にも、各教科で単元末テストや小テストを定期的に行い、自発的に学習の必要性を感じさせるための意識を持たせるとともに、基礎基本の定着を図る。また、授業内容を深く理解するための予習・復習の方法について、学年教員や各教科担当で指導していく。そして、定期的な宿題を選定・実施し、保護者の協力を得ながら、家庭学習習慣の確立を目指す。
豊かな心	豊かな心と高い志を育む	自己有用感の向上	生徒指導	学校生活、行事、体験活動、生徒会活動等を行う中で、肯定的評価を常に入れる。	生徒アンケートによる「私の良さは周りから認められている」の肯定的評価の割合	80%	81%	101%	A	生徒アンケートでは、1年79%(前期−1)、2年71%(−14)、3年96%(＋8)、全体では81%(−4)が「自分の良さが周りから認められている」と回答しており、全体では目標を達成している。特に3年生の伸びが大きく、青海祭を成功させたことなどからお互いの良さを認め合えていると考えられる。2年生の数値が下がっているが、100%の生徒が「学校は楽しい」と答えており、個別面談などを通じて思いを把握する必要がある。	前期同様、担任や学年を中心とした自己肯定感を高める取組み（日々の肯定的な声掛けや面談、デイリーライフを活用したやりとり、道徳や学活の工夫、行事の盛り上げなど）が継続されており、今後も引き続き、生徒の小さな変化にも気付き教職員間で情報共有をしながら、ていねいに生徒に向き合っていきたい。また、授業や部活動においても生徒の自己肯定感が高まるような指導を行っていく必要がある。
		社会で通用する生活態度の育成		生活4項目（大きな声で返事をする、場に応じた姿勢・挨拶をする、時刻を守る、相手を見て話を聴く）、及び「ありがとう、靴そろえ」を徹底する。	生徒・教職員・保護者アンケートによる肯定的評価の割合	90%	生91% 教91% 保90%	生101% 教101% 保100%	A	生徒の肯定的評価は「返事78%（前期−2）」、「挨拶86%（＋2）」、「時刻95%（−1）」、「聴く94%（＋1）」、「ありがとう97%（±0）」、「靴揃え94%（−2）」となっており、後期も「返事」「挨拶」以外は目標を達成している。教職員から見た肯定的評価は、「返事91%（＋16）」、「挨拶92%（±0）」、「時刻100%（±0）」、「聴く91%（±0）」、「ありがとう100%（±0）」、「靴揃え69%（±0）」となっており、「返事」「靴揃え」について生徒の認識とギャップが見られる。また、保護者の学校の生活4項目指導に対する肯定的評価は90%（−4）であり、理解を得られていると考えられる。	成果のみられる項目については、生徒を評価しながら、これまでの取組（「時刻」での黙想、「靴揃え」での委員会による点検など）を続けていきたい。「返事」については生徒自身が十分でないと考えているので、やり直しを徹底する必要がある。また、「立ち止まり挨拶」は、委員会での挨拶運動や呼びかけなどもあり、生徒76%（＋9）、教職員69%（＋31）と向上している。教職員がお手本となり、生徒が自然と気持ちの良い「返事」や「挨拶」ができるようになることをめざしたい。
健やかな体	体育向上と食育の推進	運動能力の向上	体育科	体力テストにおける学校全体の課題克服に向けて授業、部活動等で取組を徹底する。	新体力テスト、AB評価の割合	70%	44%	62%	C	昨年度より割合が減少している。男女ともに持久力やスピード、柔軟性が大きな課題となっている。また、上体起こしの数値も高くはないため、走るために必要な体幹の弱さが走りにも影響していると考えられる。3月の大崎上島駅伝に向けた練習では、生徒の中には前向きでない者もいるが、それでも練習には一生懸命に取り組む姿が見られた。	課題としては、基礎体力向上に係る運動に関しては、各部活動で、継続して取り組めるトレーニングのルーティーン化や、体育授業のみならず学校全体で年間を通して実施できる体力作りイベント、学校生活の中で気軽に体力向上を図れる仕掛けを今後検討するなどして全体の基礎体力向上に向けた取組を計画し実施していくことが必要である。また、体力向上の意義を伝えたり、達成感を感じられたりするような取り組みも考えていく必要がある。
				各種大会等に積極的に参加するとともに、生徒が自分たちで考え、意欲的に活動できるようにする。	生徒・教職員・保護者アンケート「部活動に積極的に参加している」肯定的評価の割合	90%	生96% 教100% 保91%	生105% 教111% 保101%	A	部活動への積極的な参加に関しては、生徒・保護者・教員すべてで目標値をクリアしている。熱中症対策に伴う活動時間の短縮や他校部活動数減少により、大会が合同で開催されるなど競技会に出る機会の確保が課題になっている。その中で、時間を効率よく使いながら成果を上げている。	課題としては、部活動の顧問が専門でないケースが増え、より高いレベルの指導ができにくいということが挙げられる。そこで、教員の勤務時間が増えることを十分に考慮し、外部コーチや専門的な指導を受けてきた人材を確保し、生徒のニーズに応えていきたい。
		食育の推進	健康安全	給食指導を通して、マナー及び完食をめざした食育の指導を徹底する。	週3日以上完食した生徒の割合	85%	95%	112%	A	週3日以上完食した生徒の割合は95%となり、目標値85%を上回っている。配膳の仕方の工夫や担任等の声かけ等が効果的であると思われる。しかし好き嫌いや食が細い等、個々の生徒に課題がある。	継続して給食指導や個々の生徒への声かけ等を行った。2学期には自作弁当の取組を行い、栄養教諭と連携して食育の推進に努めた。また、保健委員会を中心に残食調べや給食アンケートを実施したところ、食への関心や食べ物を大切にしようとする意識が高い傾向が見られた。個々の生徒への指導とともに、食育を推進していきたい。
信頼される学校	保護者・地域との連携	積極的な情報発信	教務	・定期的な種々の配付物やHPの更新を図ることで学校の様子を伝える。 ・家庭連絡、家庭訪問を積極的に行い、信頼関係の構築をより図る。	保護者アンケートによる「学校の様子がよくわかる」の肯定評価の割合	90%	98%	109%	A	後期も各月1回の学校だよりを中心に、学級だよりやスクールカウンセラーだより、スクールソーシャルワーカーだより、スペシャルサポートルームだより、保健室だより、図書室だより等の配付物で情報発信を行い、地域や保護者から一定の評価を得た。特に学級だよりでは、クラスでの様子を伝えるだけでなく、クラスでの成果や課題なども取り上げ、保護者の方へ発信することができている。HPの「ブログ」も定期的に更新し、様子がリアルタイムで保護者・地域の方々へ伝わる取組を行っている。	様々な配付物により学校の様子や取組の方向性を保護者に伝えることができている。課題としては情報発信に関わる業務過多が挙げられる。様々な配付物の作成に各担当者が時間をよりかけている現状がある。また、ICTを活用することで静止画だけでなく、動画なども共有することができるようになることも考えられる。情報発信のあり方を引き続き検討していきたい。
		地域等との協働	学年	地域との連携等を意図的、計画的に行い、総合的な学習の時間等の充実を図る。	生徒アンケートによる「大崎上島に関する知識が深まった」の肯定的評価の割合	90%	93%	103%	A	【1学年】『2030年の大崎上島で起こりうる「トレードオフ」を大崎上島の「リソース」を活用して解決しよう！』というパフォーマンス課題（単元末課題）を設定した単元のスタートは、小学校での「大崎上島学」の振り返りから始め、これまで学んできた大崎上島のモノ・人・魅力等がトレードオフを解決するためのリソースになり得ることを確認し、小学校との学びを連続性を持たせた。成果物として、レポートを作成した。青海祭で取組の発表も行った。 【2学年】前期に行った職場体験学習での経験を踏まえ、友好都市である東京都武蔵野市での商人体験（修学旅行1日目に実施）に係る学習を行った。大崎上島と関わりのある企業によるレモン教室、学校図書館やインターネット、島内の事業所の方へのインタビューなどによる情報収集、商工会の方による接遇研修、事業所の方との交渉などを経て、島の特産品のPRや販売を行うことができた。完売を目指して取り組む中で、大崎上島の産業に関する知識が深まった。生徒の肯定的評価も目標値を上回ることができた。 【3学年】3年1学期に行った「思春期ふれあい体験」だけでなく、大崎上島町の現状と自らの将来を照らし合わせたり、これまで小学生のときから学習してきた大崎上島の歴史や産業に関する9年間の内容を踏まえたりし、文化祭で発表する演劇の一切に係る企画・実演を、大崎上島学の集大成として主体的に進め展開してきた。これにより、生徒の肯定的評価が高まったと考えられる。	【1学年】2学年では「職場体験学習」や修学旅行での「商人体験」が予定されている。SDGsの視点はこれらの活動でも重要な視点となる。自分の将来や大崎上島の未来を考えて行くうえで、1学年での学びを今後の学習につなげていく。 【2学年】職場体験学習、修学旅行での商人体験を通して自分の地域の産業について、情報をまとめる力、他者に分かりやすく伝える力を養うことができた。また、自分の地域の良さや地域の人々の思いを知り、自分の将来の夢や地域で果たすべき役割について探求する姿が見られた。次年度も、故郷への誇りと自己実現しようとする意欲を継続して育てていきたい。 【3学年】生徒自身が大崎上島の現状を踏まえ、「大崎上島学」の集大成として劇発表することは有意義であると考える。今年度は、大崎上島と自らの将来を見つめる脚本内容であった。ふるさと大崎上島の将来を考える良い機会となった。また、今年度も劇団員の方々から強い影響を受け、自分の殻を破る演技を行う生徒も多く見られ、全員が達成感を味わうことができる作品となった。
業務改善	生徒と向き合う時間づくりと時間外勤務の削減	行事の精選と時間外勤務の削減	総務	・学校行事、地域行事等の見直しを行い、生徒と向き合う時間を確保する。 ・分掌の組織化をさらに推進し、業務の分担を図る。一斉退校日を毎月4日設定する。	・学校行事、地域行事をそれぞれ1つ以上削減する。 ・時間外勤務時間毎月45時間以下の職員数の割合	60%	59%	99%	B	学校行事実施月及び繁忙期に、時間外勤務時間45時間以下の教職員数が減少する傾向にある。計画的かつ組織的な業務遂行が必要であるとともに、学校行事の実施方法及び外部講師等との連携内容を検討し、時間外勤務時間の削減を行う必要がある。	教職員に対して一斉退校日を意識した業務遂行を促すとともに、働き方改革について保護者の理解を図りながら一斉退校日をより一層徹底していく。また、学校行事及び繁忙期を見通した計画的かつ組織的な業務遂行ができるよう、校務運営会議において行事計画等を早めに検討する。
		休養日の設定		・計画的な年休を5日以上取得する。 ・長期休業中は、連続3日以上の休養日を設定する。 ・部活動については、週2日の休養日の設定と練習試合等の時間短縮に向け改善を図る。	週当たりの休養日、計画的な年休、週休日の部活動、長期休業中休養日の取得の割合	80%	94%	117%	A	計画的な年休取得については、81．3%となり前期と比較して6．3ポイント増加した。冬季休業期間における職員研修日を必要最小限にするとともに、教職員が週休日等と連続して年休が取得できるよう日程調整を行った。また、冬季休業期間の勤静表を早めに教職員に周知することで、計画的に年休を取得することができた。	今後も計画的な年休取得及び早時退校を促進する。また、長期休業期間における校内研修の内容を精選し、計画的な年休取得に向けた職場環境を整備する。

【評価指数】　A：達成 100≦(A)　B：ほぼ達成 80≦(B)<100　C：もう少し 60≦(C)<80　D：できていない (D)<60